

# 親父が認知症に!?

## 番外編

### 後日談 ①

■今度は母が……

父の郷里で四十九日の法要を済ませた私は、法要の準備と同時進行していた相続手続きの煩雑さと、仕事が遅い役所への不満を募らせて心身ともに疲弊していました。

「このままだと自分が壊れる」——危機感をもった私は、現実逃避と称して1泊だけの一人旅に出ました。ずっと以前から行ってみたいと思っていた横須賀の軍港クルーズを楽しんで、記念艦「三笠」を隅々まで堪能し、翌日の夕方には帰宅しました。

ところが、自宅の玄関を入ると同時にスマホに着信がありました。消防の救急隊からでした。

「あなたのお母さんが路上で転んでケガをして、通りがかりの人から通報を受けて出動しました」というのです。

まったく、私が帰ってくるのをどこで誰が見ていたのかと思えるような、絶妙なタイミングでした。そして「今から病院へ搬送しますから、救急車に同乗してほしい」と言われました。場所を

聞くと、実家から歩いて2〜3分の、いつものスーパーへ通じる道で

した。私の自宅からも近いのですが、このときはさすがに動きたくありませんでした。たった今、現実逃避の旅から戻ってきたばかりです。せっかくりフレッシュして帰ってきたのに「今度はオカンかよ……」という落胆というか、勘弁してくれ」という感情が先に立ったのです。冷たいようですが、同乗は断りました。代わりに弟の連絡先を伝えて、病院で合流してもらうことにしました。

父のことは私がすべてやりました。だから母のことは弟にさせるつもりで、その旨を弟にメールで伝えました。

(次号に続く)